

漁業の概要

東京湾のノリは、東京湾北部、木更津、富津の3地区で主に贈答用・家庭用として生産されており、江戸前ノリとして高い評価を受けています。

のり養殖は区画漁業権に基づき沿岸で支柱を建てて行う支柱罫(主に木更津地区)と、沖合で網を浮かべるベタ流し(東京湾全域)のいずれかで営まれています。

水温が下がる秋から翌春までノリ生産を行い、生産の無い時期は小型底びき網漁業などの他の漁業や農業、翌漁期の準備を行っています。

のり養殖業はノリの養殖だけではなく、乾海苔加工まで行っていますが、加工設備の初期投資や維持管理費が掛かるため、近年はグループで共同加工施設を設置して、コスト削減と生産の効率化を図っています。

対象魚種	スサビノリ
漁船の規模	摘採船、浸漬処理船、高速浸漬処理船(摘採機能付き)など1～3トン
乗組員数	1～2人
年間労働日数	海上100日、陸上100日
技術習得期間	3年程度



ノリ養殖(支柱罫)の作業

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	1,708万円
経費	1,049万円
漁業所得	659万円

※平成30年度漁業経営調査より引用

※上記はあくまで一例であり、年、海洋環境、習熟度等によって大きく変動します。

年間操業計画例(ベタ流し)

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ベタ打ち(共同作業)								←→				
種付作業(採苗)									←→			
網入(育苗)										←→		
ノリ生産	→	→	→	→	→						←	←
ベタ撤去・準備				←→								

1日の操業スケジュール例

5:30	出港
～ 7:30	摘採作業
～ 9:30	ノリの加工場搬入
～ 16:30	網の洗浄・張替等
16:30	帰港
～ 18:30	(必要に応じて) 給油・メンテナンス等

就業と漁労作業

就業については、既存の漁業者に雇用されて、技術等の習得や組合員資格、漁船、加工機器を取得し、独立を目指すことになります。

漁労作業としては、ノリを摘む摘採作業、網の洗浄・張替等を分担して行います。